

おはようございます。  
長崎大学人、河野茂です。

先日、西九州新幹線「かもめ」に試乗会に行ってきました。  
片道23分、あっという間の1往復でした。9月23日は雨空の中、開通を祝うブルーインパルスが飛びましたね。  
全線開通ではありませんが、確実に新しい時代の長崎がはじまる予感がします。

23日の長崎新聞には、「かもめで行きたい。かもめで見たい。かもめでつながる新しい世界」というキャッチフレーズと共に、QRコードにスマホをかざすと、ARで車窓の風景が見られるという斬新な仕掛けがしてありました。  
とてもよかったです。あらためて、長崎は素敵な場所だと思いました。

さて、長崎大学も新しい時代を感じさせるものにならないといけませんね。  
キャッチフレーズを引用させてもらおうと、「長崎大学に行きたい。長崎大学で会いたい。長崎大学でつながる新しい世界」と、いうことですね。  
受験生だけでなく、産業界の方々、地域の方々からそう思われる大学にならねばなりません。

同日の同新聞の一面には、「長崎大学片淵キャンパス 長崎市中心部に移転検討」の記事も掲載されました。  
びっくりされた教職員も多いと思いますが、まだ検討段階です。  
新聞の記事の内容の通りで、文教キャンパスが手狭になったことや、学部間交流や企業との連携のため等の理由があります。  
進捗は様々な会議などでお伝えします。  
この発想の真意は、「長崎大学に行きたい。長崎大学で会いたい。長崎大学でつながる新しい世界」を実現したいという私の思いです。

10月となりました。私の任期もあと1年。  
数回にわたり、今の心境をメールしたいと思います。さらに、数名の理事の方に今後の展望などを聞いてみます。  
<新しい長崎の展望や長崎大学でつながる新しい世界>は、長崎新聞社前社長の才木邦夫理事にお願いします。

みなさんからのメールもお待ちしています。  
ぜひ、みなさんの、「新幹線の体験」「新しい世界」「キャンパスへの思い」など、前向きで建設的なご意見をお待ちしております。  
お気軽にメールください。